

## 座長変更のお知らせ

プログラム ページ	セッション名 セッションテーマ	変更前	変更後
p.151 (p.27)	特別シンポジウム1 「ウイルスゲノム・耐性シンポジウム」	満屋 裕明 先生 (国立国際医療研究センター研究所) 杉浦 亙 先生 (国立国際医療研究センター 臨床研究センター)	吉村 和久 先生 (東京都健康安全研究センター) 杉浦 亙 先生 (国立国際医療研究センター 臨床研究センター)
p.152 (p.28)	特別シンポジウム2 「抗HIV薬の開発と40年のあゆみ ～Dr. John C. Martin Memorial symposium～」	満屋 裕明 先生 (国立国際医療研究センター研究所) 杉浦 亙 先生 (国立国際医療研究センター 臨床研究センター)	杉浦 亙 先生 (国立国際医療研究センター 臨床研究センター)
p.154 (p.30)	シンポジウム 「治療の手引き」	満屋 裕明 先生 (国立研究開発法人 国立国際医療研究センター) 岡 慎一 先生 (国立研究開発法人 国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター) 白阪 琢磨 先生 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)	岡 慎一 先生 (国立研究開発法人 国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター) 白阪 琢磨 先生 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)

## 演者変更のお知らせ

プログラム ページ	セッション名 セッションテーマ	変更前	変更後
—	開会式	Eamonn Murphy 先生 (Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (国連合同エイズ計画))  José M. Zuniga 先生 (IAPAC代表)	<b>Eamonn Murphy 先生</b> (国連合同エイズ計画 事務局次長)  <b>Gonçalo Lobo 先生</b> (IAPAC)
p.161 (p.37)	シンポジウム11 「海外連携 2030年のエイズ流行終結に向けた 国際連携とベストプラクティスの共有」	Eamonn Murphy 先生 (Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (国連合同エイズ計画))	<b>Yuki Takemoto 先生</b> (Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (国連合同エイズ計画))
p.168 (p.44)	共催シンポジウム2 「ViiV Medical Education Symposium ウイルス抑制後のHIV陽性者の アンメット・ニーズをどうとらえるか」  共催：ヴィーブヘルスケア株式会社	HIV陽性者スピーカー2名	<b>加藤 力也 先生 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)</b> <b>Kazuya 先生 (特定非営利活動法人ぶれいす東京)</b>

## セッションテーマ変更のお知らせ

プログラム ページ	セッション名	変更前	変更後
p.168 (p.44)	共催シンポジウム2 共催：ヴィーブヘルスケア株式会社	ViiV Medical Education Symposia ウイルス抑制後のHIV陽性者のアンメット・ニーズを どうとらえるか	<b>ViiV Medical Education Symposium</b> ウイルス抑制後のHIV陽性者のアンメット・ニーズを どうとらえるか
p.169 (p.45)	共催シンポジウム5 共催：デンカ株式会社	HIV-1感染症の根治に向けて	<b>HIV-1感染症の根治に向けて-2- 新たな道のり</b>
p.176 (p.52)	ランチョンセミナー12 共催：SB新型コロナウイルス検査センター株式会社	新型コロナのゲノム解析を踏まえた、 今後の感染症対策へのゲノム解析への活用について	<b>ICT企業が挑むヘルスケアの未来</b>

## ご発表順変更のお知らせ

プログラム ページ	セッション名 セッションテーマ	変更前	変更後 <b>赤字</b> ：変更箇所
p.156 (p.32)	シンポジウム4「EACS Live discussion HIV診療の実臨床について議論するEACSと 日本エイズ学会のコラボレーション企画」	1：福島 一彰 先生 (SY4-1) 2：上村 悠 先生 (SY4-2) 3：Jasmini Alagaratnam先生 (SY4-3)	<b>1</b> ：Jasmini Alagaratnam 先生 (SY4-1) <b>2</b> ：上村 悠 先生 (SY4-2) <b>3</b> ：福島 一彰 先生 (SY4-3)
p.168 (p.44)	共催シンポジウム1「HIV治療における 「Patient Empowerment」を考える － 日常診療での実践に向けた課題は何か －」 共催：ギリアド・サイエンズ株式会社 メディカルアフェアーズ本部	1：東 光久 先生 (SS1-1) 2：今橋 真弓 先生 (SS1-2) 3：矢倉 裕輝 先生 (SS1-3) 4：羽柴知恵子 先生 (SS1-4) 5：岡本 学 先生 (SS1-5)	<b>1</b> ：東 光久 先生 (SS1-1) <b>2</b> ：今橋 真弓 先生 (SS1-2) <b>3</b> ：羽柴知恵子 先生 (SS1-3) <b>4</b> ：矢倉 裕輝 先生 (SS1-4) <b>5</b> ：岡本 学 先生 (SS1-5)
p.171 (p.47)	共催シンポジウム9 「持効性注射剤による 新しいHIV感染症治療」 共催：ヴィーブヘルスクア株式会社/ 塩野義製薬株式会社	1：安達 英輔 先生 (SS9-1) 2：田沼 順子 先生 (SS9-2) 3：矢倉 裕輝 先生 (SS9-3)	<b>1</b> ：田沼 順子 先生 (SS9-1) <b>2</b> ：安達 英輔 先生 (SS9-2) <b>3</b> ：矢倉 裕輝 先生 (SS9-3)
p.176 (p.52)	ランチョンセミナー13「多職種との 医療連携の必要性・その実態について」 共催：ノボ ルディスク ファーマ株式会社	1：大金 美和 先生 (LS13-1) 2：近澤 悠志 先生 (LS13-2)	<b>1</b> ：近澤 悠志 先生 (LS13-1) <b>2</b> ：大金 美和 先生 (LS13-2)

## 演題名追加のお知らせ

プログラム ページ	変更前	変更後
p.171 (p.47)	<p>共催シンポジウム9 「持効性注射剤による新しいHIV感染症治療」</p> <p>演者：田沼 順子 先生 安達 英輔 先生 矢倉 裕輝 先生</p> <p>共催：ヴィーブヘルスケア株式会社/塩野義製薬株式会社</p>	<p><b>共催シンポジウム9</b> <b>「持効性注射剤による新しいHIV感染症治療」</b></p> <p><b>演者：田沼 順子 先生</b> 「治療方針決定への患者参画のあり方-患者さんと共に明日の医療をつくる-」 <b>安達 英輔 先生</b> 「持効性注射剤による治療が最適な患者像の特定」 <b>矢倉 裕輝 先生</b> 「最新治療の導入と多職種連携の実践」</p> <p>共催：ヴィーブヘルスケア株式会社/塩野義製薬株式会社</p>
p.174 (p.50)	<p>ランチョンセミナー7 「HIV treatment up-to-date」</p> <p>演者：田沼 順子 先生 南 留美 先生</p> <p>共催：ヴィーブヘルスケア株式会社/塩野義製薬株式会社</p>	<p><b>ランチョンセミナー7</b></p> <p><b>演者：田沼 順子 先生</b> 「患者への医療情報提供のあり方と2剤療法」 <b>南 留美 先生</b> 「実臨床およびPLHIVのフィードバックから考える ドゥベイトのベネフィット」</p> <p>共催：ヴィーブヘルスケア株式会社/塩野義製薬株式会社</p>
p.175 (p.51)	<p>ランチョンセミナー9 「患者満足度向上を目指して、チーム医療が貢献できること」</p> <p>演者：古賀 道子 先生 緒方 釈 先生</p> <p>共催：ギリアド・サイエンシズ株式会社</p>	<p><b>ランチョンセミナー9</b> <b>「患者満足度向上を目指して、チーム医療が貢献できること」</b></p> <p><b>演者：古賀 道子 先生</b> 「患者目線で医療ニーズを考えるチーム医療 —「何を伝えたか」よりも「どう伝わったか」に意識を高める 医療者のmind shift—」 <b>緒方 釈 先生</b> 「Long Term Treatment Successに役立つコミュニケーションスキル」</p> <p>共催：ギリアド・サイエンシズ株式会社</p>

## 共著者追加のお知らせ

プログラム ページ	変更前	変更後
p.201 (p.77)	<p>一般演題（ポスター） P-S4-1 「HIV感染症患者の療養支援に関するNsとMSWの協働について ～第1回NsとMSWの協働シンポジウムのアンケート結果から～」</p> <p>演者： 葛田 衣重 先生</p> <p>千葉大学医学部附属病院 感染制御部</p>	<p>一般演題（ポスター） P-S4-1 「HIV感染症患者の療養支援に関するNsとMSWの協働について ～第1回NsとMSWの協働シンポジウムのアンケート結果から～」</p> <p>演者： 葛田 衣重 先生<sup>1)</sup>、池田 和子 先生<sup>2)</sup>、古谷 佳苗 先生<sup>1)</sup>、小嶋 道子 先生<sup>3)</sup>、 羽柴 知恵子 先生<sup>4)</sup>、三嶋 一輝 先生<sup>5)</sup>、横幕 能行 先生<sup>4)</sup></p> <p>1)千葉大学医学部附属病院、 2)国立国際医療研究センター病院 3)がん・感染症センター都立駒込病院、 4)NHO名古屋医療センター、 5)福井大学医学部附属病院</p>